

膠原病が完治するという意味は何か？

アレルギーやアトピーが完治するという意味は何か？

まずアレルギーが完治するということは、過去に作られたアレルゲンである個々の化学物質とひとつずつ免疫寛容を起こしていくことです。つまりひとつひとつのアレルゲンと共存することです。次に、膠原病が完治するということは、膠原病で用いられる IgG 抗体をクラススイッチして IgE 抗体に変え、症状をアレルギーにして、最後は過去に作られたアレルゲンである個々の化学物質とひとつひとつ免疫寛容を起こしていくことです。膠原病もアレルギーも、いずれの場合も免疫寛容を起こすことによって個々の化学物質と共存することができ、そのアレルゲンによって引き起こされた膠原病やアレルギーは完治したといえるのです。

もっと具体的に説明しましょう。上の文章でわざわざ「過去に作られたアレルゲン」とか「個々のアレルゲン」という言葉を使いました。その意味について説明する必要があります。

まず「過去に作られたアレルゲン」という意味について説明しましょう。化学物質を人類が作り出し始めて 250 年経ちます。その間、人間は 7500 万種類の化学物質を作りました。この瞬間でも全世界の化学工場で新しい化学物質が作られています。なんと 1 日に 15000 種類以上といわれています。膠原病やアレルギーは過去に作られた抗原、あるいはアレルゲンに対して戦って生じているものです。決して未来に作られる可能性がある化学物質を敵に回して戦っているではありません。既に作られた化学物質を異物として認識した免疫は、免疫を抑えない限りは必ず自然後天的免疫寛容を起こすのですが、未来に作られる新たな化学物質を異物と認識するかどうかは、未来にしか分からないのです。ただ言えることは、過去の化学物質に対して膠原病やアレルギーを起こした人が、未来の化学物質に対して膠原病やアレルギーを起こさないということはまず考えられません。化学文明社会が化学物質を作り続ける限り、膠原病やアレルギーは起こり続けるのです。なぜならば既に過去に、あるいは現在においてアレルギーや膠原病を起こしている人は、生まれつき持っている異物を認識する遺伝子である MHC II 遺伝子の多様性が、アレルギーの少ない人よりもはるかに優れているからです。

次に「個々のアレルゲン」の意味について説明しましょう。自然後天的免疫寛容というのは、ひとつひとつのアレルゲンに対して免疫寛容を起こすことであるということです。生まれ持ったアレルギーを起こしやすいという一般的な性質がなくなることではないのです。これは当たり前のことではありますが、一般大衆は、過去や現在に起こしているアレルギーが完治してしまうと、2 度とアレルギーは起こらないと勘違いしている人が多いのです。言い換えると、巷で「アレルギー体質を変えることができる」とか「アレルギー体質を変える食品がある」とか「アレルギー体質を治す治療法」というのは全て嘘なのです。なぜならば、「体質」というのは生まれ持った遺伝子の設計図でありますから、それを変えるこ

とは絶対に不可能なことだからです。この意味を知らずして、医者さえもが「体質を変えることが大事です」と話しているのを聞くと、本当に残念です。このような誤解があるので、当院で10年前にステロイド離脱をして、自然後天的免疫寛容を起こしてアレルギーが完治したと思込んだ人が、10年後に再び別のアレルゲンに対してアレルギーを起こしたにもかかわらず、「治ったと思っていたのに、アレルギーがなぜまた起こるのか」とクレームをつける人がたくさんいるのです。どうしてこのような誤解が起きるかという、自分勝手にアレルギー体質がなくなったと思込んでいるからです。体質、つまり遺伝子は永遠に変わらないことに気づいていないのです。

ここでもう一度まとめましょう。過去に作られた化学物質のひとつひとつのアレルゲンに対して免疫寛容を起こして共存することができるので、「そのアレルゲンに対して免疫寛容を起こした後は、そのアレルゲンだけとの戦いで生ずるアレルギー症状は完治する。しかし新たに作られたアレルゲンに対して再びアレルギー症状がでるかどうかは分からない。」というべきなのです。少し長ったらしくなりましたが、これが膠原病やアレルギーの完治の意味であります。

アレルギーと膠原病は同じ化学物質と戦っていることは言うまでもないことでしょう。ただ違いは、膠原病を治すためには、膠原病をアレルギーに変える必要があるということも既に述べました。

2014/09/04